

今後の県立高校の在り方について

「第2期高校教育改革推進計画」の策定に向けて(報告)概要版

令和2年4月27日、群馬県高校教育改革検討委員会委員長から教育長へ、本県高校教育の諸課題や今後の在り方について検討した結果が報告されました。内容(概要)については以下のとおりです。
<検討期間>平成30年12月~令和2年3月
<趣 旨>現行「高校教育改革推進計画」の計画期間が令和3年度までであることから、令和4年度以降を計画期間とする「第2期高校教育改革推進計画」の策定に向け、有識者により、本県高校教育の諸課題や今後の在り方について検討を実施

「社会の急激な変化や生徒の多様化、中学校卒業者の減少等、教育を取り巻く状況を踏まえ、たくましく生きる力[※]の育成を目指し、特色ある高校教育を推進して、教育の質の一層の充実を図っていくことが不可欠である。」
※「たくましく生きる力」：本県の教育部門の最上位計画「第3期群馬県教育振興基本計画(H31~R5)」の基本目標「たくましく生きる力をはぐくむ~自らの可能性を高め、互いに認め合い、共に支え合う~」による。

高校教育の質的充実(取組の方向性)

(1) 時代を切り拓く力の育成

「社会の変化を前向きに受け止めながら、自らの可能性を高め、開花させるとともに、新しい時代を牽引する力や社会を支えるリーダーシップ等の資質を育むことが必要」

例えば

- ・地域や産業界との連携によるキャリア教育の充実
- ・情報活用能力の育成
- ・国際理解教育や主権者教育の推進

(2) 確かな学力の育成

「生涯にわたって能動的に学び続けられるよう、主体的に学習に取り組む態度の育成が重要」
「教育効果の向上に向け、ICT活用の充実を図ることが必要」

例えば

- ・新学習指導要領を踏まえた学力の向上
- ・ICTの活用による個別最適化された授業の実施

(3) 豊かな人間性と健やかな体の育成

「何事にも主体的に取り組もうとする意欲や、多様性を尊重して互いに認め合い支え合う態度、コミュニケーション能力等を育み、生涯を通じて活力ある生活を送るための基礎を培うことが重要」

例えば

- ・いじめ防止活動の取組の充実
- ・SNS等に頼らない人間関係づくりの推進
- ・ボランティア等の体験的な活動の推進

(4) 信頼される学校づくり

「新たな課題への学校の対応力を向上させながら、生徒の多様化に柔軟に対応し、全ての生徒が安心して高校教育を受けられる体制づくりを進めていくことが必要」
「急激な少子化を踏まえた生徒受入体制の整備や学校・学科等の在り方、入学者選抜制度の見直し、男女別学校の共学化についても、実情を踏まえた検討が必要」

例えば

- ・学校のマネジメント機能や教員の指導力の向上
- ・不登校経験や障害のある生徒、外国人生徒等へのきめ細かい対応

(5) 地域との連携・協働の推進

「地域を題材とする探究的な学びなどを通して、地域への誇りや愛着の心を育みながら、地域に根ざし、幅広い分野で活躍できる人材の育成を図っていくことが望ましい」

例えば

- ・地域の伝統や文化、ものづくりの技術や観光資源等をテーマとする学習の推進
- ・学校を含めた地域全体の活性化と、魅力ある取組の県内外へ向けた発信

→下部に詳しく記載

本県高等学校における生徒受入体制の在り方

○ 公立高校と私立高校との協調の必要性

- ・公立と私立による現状の生徒受入体制を基本とし、社会の変化や生徒の学習ニーズの多様化等を適切に踏まえて柔軟に対応
- ・本県の子供たちが本県で十分な高校教育を受けられるよう、公立高校と私立高校とが協調し、生徒受入体制を整備することが必要

○ 県立高校の再編整備

- ・少子化が進行して学校が小規模化することの影響
→ ・切磋琢磨や学び合いの機会の減少 ・学校行事や部活動の活力の減退 ・教員数減少により多様な学習ニーズへの対応が困難

<再編整備の考え方>

- 公立高校の適正規模は原則として1学年当たり4~8学級とし、維持が見込まれない学校については、地域の実情を踏まえながら、統合を含む再編整備を検討していく必要がある
- ・県内8地区それぞれに、高校教育の質を保つため、一定規模の中核となる学校を配置することが必要
- ・学科やコース、系列の配置は全県のバランスとニーズを踏まえた検討が必要
- ・1学年当たり2学級規模の小規模校については、再編整備の目安となる基準の設定を含めて地域との情報共有を図っていくことが重要

学校・学科等の在り方

- <全日制普通科系学科>個々の学習ニーズへの対応、各地区ごとの普通科系中核校の維持、単位制への改編等について検討が必要
- <全日制職業系専門学科>地域や産業界での役割を踏まえた学科配置、学科の拠点校整備、学級定員引下げについて検討が必要
- <全日制総合学科>総合学科のシステムの活用、他学科から総合学科への改編を含めた新たな総合学科の在り方について検討が必要
- <定時制・通信制>昼間定時制の拡充、夜間定時制の授業時間を早める対応、通信制の平日通学指導の充実について検討が必要
- <中高一貫教育校>現在の配置を基本としつつも、社会の変化や学習ニーズの多様化を踏まえた今後の在り方についての検討が必要

入学者選抜制度の在り方

- ・全県一区制を継続しながら、公平・公正の観点から、受検機会や検査内容等のより適切な在り方について検討が必要
- ・多様なケース(不登校経験や障害のある生徒、外国人生徒、感染症罹患生徒等)に対応するため、より適切な制度設計が必要

男女共学化に係る基本的な考え方

- ・男女別学校については、高校教育改革の中で、社会の変化や県民のニーズ等を踏まえ、地域や関係者の理解と協力を得ながら、共学化を推進していくことが望ましい